

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第2回瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成22年2月18日(木) 18時30分～20時35分
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1)定住自立圏共生ビジョンの目的および期間について (2)定住自立圏の将来像について (3)定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組について (4)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長，佃委員，平尾委員，好井委員，吉田委員，宮本委員，佐伯委員，三井委員，岩瀬委員，熊委員
傍聴者	0人 (定員 10人)
担当課および連絡先	企画課 (839-2135)

会議経過および会議結果

会議を開会し，次の議題について協議し，下記の結果となった。

- (1) 定住自立圏共生ビジョンの目的および期間について
- (2) 定住自立圏の将来像について
- (3) 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組について

以上のことについて，事務局より説明し，次のとおり意見があった。

(会長)

今年の3月末までに最初の共生ビジョンを策定するという予定になっており，年度が変われば，第2ラウンドとして次回のビジョンに生かす議論をしたいと思っています。共生ビジョンに生かせない意見については別に取りまとめるということで考えています。事務局から共生ビジョン素案について，前回の委員の意見も踏まえた見直しについて説明がありましたが，御意見をお願いします。

(委員)

交流ということから考えると，大学については県内，地元志向が高まっていると感じています。教育においては，高齢社会になって，社会人対象の出前講座などが有効になってきており，家庭教育も大切な分野だと考えています。

(委員)

家庭教育ですが，都会では，就学前のこどもを対象にお行儀教室をやっており，マナーを教える取組も必要なのではと考えています。

会議経過および会議結果

(会長)

香川県は交通安全教育を重点的に実施しているが、マナーが悪いのかルール違反なのかを区別して、教える必要があり、単体で実施するのではなく連携して実施すればと思います。

(委員)

さきほど説明の中で、中心市宣言からのいきさつを説明されましたが、合併と定住自立圏についての関係を教えてください。

(事務局)

合併については、行政が統一されますので、全ての事業が同じという結果になりますが、定住自立圏構想は合併を目指すものではなく、お互いにメリットがある事業について、連携するというものです。

(委員)

定住自立圏で協定する市町は増えることもありますか。

(事務局)

そういうことも想定はしております。いままで、高松市は築港を始まりとして、海に背を向けたまちづくりを考えていましたが、海園都市構想や瀬戸内芸術祭を機に海に開かれたまちづくりを目指しています。

(委員)

福祉関係の計画づくりに多く、携わっていますが、計画をつくっても、その情報が発信されないという状況があるので、計画をより一般の人にわかるように広めることが必要だと思います。

(会長)

情報の発信などはタイミングが非常に重要で、行政だけでなく、様々な方法で、たとえば、小さな子どもでも分かるような情報を発信することも重要だと思います。

(委員)

広域的な行政展開を行い、効果的な連携ができれば、行政コストが下がり、住民サービスにつながるとは思います。取組の中で、特産品の販売について、周辺町の特産品も含めて新たな料理に取り組むといったようなことも必要だと思います。

(委員)

高松がつくる共生ビジョンなのでしかたがない部分もありますが、視点が全て、高松からのものになっています。共生はまずお互いのことを知ることが必要で、瀬戸内芸術祭にしてもアートを題材にしているだけで島々とふれあうことが重要です。もっと、交流の促進を行い、島の文化を知ることが最初だと考えます。

(会長)

これは、大切なことです。高知県の例をだしますと、高知は高知市など拠点整備を行い、その効果を他の拠点ではない地域に波及させるという手法をとっています。高松でも中心市の拠点性を高めるやり方だけが有効なのか連携のあり方が今後の課題となってくると思います。

(委員)

20年後，30年後の香川県のすがたを想定して，共生ビジョンを策定することが大切ではないでしょうか。

(事務局)

都市計画マスタープランでは，多核連携型コンパクトエコシティを掲げて将来像を想定しています。三木町，綾川町は核の一つになるものと考えており，海城を挟んだ町については，今後の連携するまちづくりの課題と考えております。

(委員)

丸亀町商店街は，中核都市機能を高めるものとして，メディカルモール，アートアーカイブセンターを計画しており，周辺にちらばったものを中心市街地に集めて情報発信をしていきたいと考えています。

(会長)

30年後のを見据えてということもできてきましたが，やはり変化に対応できるものを考えるということが大切で，情報よりも行動への動機づけを一般の方にも拡げる方法が必要ではないかと考えています。

来年度からの第2ラウンドも視野に入れて今後も議論を続けたいと思っています。本日はこれで終わります。ありがとうございました。